

研修名 乳児保育・教育 幼児教育・保育

平成30年6月21日(木) 10:00~12:30

講演 「保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領について」

講師 大阪総合保育大学 大方 美香 氏

1 講演要旨

・児童福祉法改定

保育に欠ける ⇒ 保育を必要とする

支援を必要とする子ども対象。

対象は保育を必要としている人全員。保護者が困ったと感じたらすべてが対象。

☆福祉の枠を越えて、子育て中の人、就学前の子ども
全員 …対象が広がる

・教育保育要領（10年に1度改定）

10年後、20年後の子どもたちにどのような姿になってほしいか。

・保育所保育指針（7章→5章に）

改定でおおむねがなくなった ⇒ より一人の子ども単位で理解が必要

↓

個人差が大きく、気になる子どもが増え始めた

◎クラス間の連携についても考えていかなければならない。

子どもの育ちが家庭養育により変わってきた

→今までは子どもが大切だけど、仕事があるから預けてきた。

今は家庭で保育をするのが難しく、家に親がいても預けたい。

どんな暮らしをしていたのかを振り返り、どう育てていくのか。

見えない内面性を理解する。

◎先生との関係性をまず作る。

乳児保育の長時間化 ⇒ 保育士が与える影響がとて大きい。

(長くいる子は11時間、週6日)

保育は生活

“そばにいるよ” “ほほえみかけてくれる大人”

何もなくても先生がいることの安心感

3歳未満の愛着の重要性

養護と教育の一体化

⇒ 保育・生活すべて

4月に“手を洗おう” ⇒ つっ立っている子、水道をたたく子

水道の形（様々な生活道具）を使っている子がくる…これに気づくのが保育の専門性

物が変わって、生活が変わったことで、あらゆる言葉・行いがなくなっている。

⇒ お茶を飲む … 湯のみ、コップ、つぐ、そそぐ

ペットボトルが出てきたことで、それがなくなっていく



これでままごとの形も変わってきている

こういったことに気づいて、子ども一人一人の背景を知り、
保育を行っていく必要がある。

⇒ 家庭で教育できない

経験できない

ことを保育で経験できるように

◎クッキングすることで、切る、食器を洗う、拭く、手を洗う

人数分カップを配るなどの経験をする。

4月は5歳が下の子に手洗い指導（当番）

・集団保育 子どもから子どもへ種をまく

一人の子の経験が社会に繋がっていく。

一人の体験を広げる → 集団の良さ

◎そこに関わっていく保育士の仲立ちが必要。

・寝ている子 ⇒ 息しているかな？顔を覗き込む、名前を呼んで“おはよう”を言う、
1分ぐらい抱っこをする それが愛着。

家庭保育が安定している子…人なつっこく、周りの人に愛される
ふれあいを大切にする→人を求める子になる

寝る子は良い子

⇒筋力、思考力を培うためには体・頭を適切に使う必要がある。

☆抱っこは自分で体を起こす力がつく、触られてきもちいい〜と心も育つ

いないいないばあ

何でもないことから考える力や予測する力がつく

積み木

かたい物をしっかり持つことで、指先に力が入る
やわらかい物だけでは、力の入れ方がわからない
この遊びをすることで、身につく力がある

子育て支援

指摘するだけではダメ

一緒にがんばりましょう

2 感想

今までの指針と改定後の指針を見比べながら話を聞くことで、新たに保育の中で重要とされていることがよく分かりました。保育が欠けるのではなく、保育を必要とする今の子供たちに一体どういった力を育てていきたいか、10年後・20年後を見つめながら、育ててほしい10の姿を考えて保育をしていく必要があると改めて感じました。またおおむねという表記がなくなったことでより一人の子供単位での理解が必要になり、子ども一人一人の背景を理解し、保育を進めていくことが大切だと思います。そのためにも私たち保育士は変わりゆく子供たちの姿を理解し、保育士間で話をしたり、勉強する機会を持ったりしながら自分たちの資質を高めていく必要があるとおもいました。まずは保育所で今回したワークをする機会が持てたらと思います。

(京丹波町立上豊田保育所 伴田絵理)

今回の研修を通して、子どもの育ちが変わってきていることを改めて感じました。児童福祉法の改定により、保育を必要とする人すべてに対象が広がり、その中で気になる子どもが増えている実態もあるので、一人一人の背景を理解し、子どもたちにどのような姿になってほしいかを考えながら、保育をしていきたいと思いました。保育所保育指針が改定されたことにより、乳児・1歳以上3歳未満児の保育に関する記載が充実されています。乳児の保育が長時間化してきたこともあり、保育士が子どもに与える影響は大きいということを言われていました。私は今、0歳児クラスの担任をしています。ふれあいやスキンシップを大切に、受容的・応答的な関わりを通して、子どもたちとの愛着関係を築き、安心して過ごせるようにしていきたいと思いました。

(記録 京丹波町立上豊田保育所 谷 麻美)

